

4 がん種別 悩みや負担の比較：症状・副作用・後遺症

この章の要点

- 2003年の第一次調査と比べて、第二次調査では、薬物療法に関する悩みや負担の割合が顕著に増加している。(p.25)
- 主要5大がんでは、特に、大腸がん、肺がん、乳がん、胃がんで薬物療法に関連した悩みや負担が増加している。(P.25)
- 乳がんでは、より顕著に薬物療法の多様な副作用症状が上位にあがってきている。その多くは、治療終了後も長期化する症状(末梢神経障害によるしびれや脱毛など)や日常生活に影響がある症状である。(p.27-28)
- 大腸がんでは、第一次調査時は、手術に関連した症状や機能障害が上位にあがっていたが、第二次調査では、薬物療法の副作用症状が上位にあがってきている。これは、薬物療法を受ける患者数が増え、分子標的薬による新たな副作用も出現していることなどがその理由と考えられる。(p.29-30)
- 胃がんでは、他部位と比較し、上位10位以内は第一次調査、第二次調査とも手術に関連した症状などの項目が多い。特に、食事、体重減少、体力低下の3つのキーワードが胃がん体験者の悩みの特徴といえる。しかし、第二次調査では、第1位は薬物療法に伴う副作用に関する悩みであり、薬物療法に関連した悩みや負担が増加している。(p.31-32)
- 肺がんでは、乳がんや大腸がんと同様、薬物療法の副作用に関する悩みや負担が上位を占める形に変化している。また、他の部位のがんでも上位ではあるが、第2位に「治療後の体力低下・体力回復」があがっている。(P.33-34)
- 子宮がんは、子宮頸がん、子宮内膜がん、その他の子宮がんをまとめたものになるが、上位は第一次、第二次調査ともほとんど変化はなく、リンパ浮腫や排泄障害など手術による障害や後遺症が上位を占めている。(p.35-36)

(1) 「症状・副作用・後遺症」に関する分析について

今回の調査で、4つの柱のうちの一つである「身体の苦痛」(大分類「症状・副作用・後遺症」)は、第2位を占めていた。そこで、「身体の苦痛」の実態を詳細にみていくために、具体的な悩みが分類項目名になっている細分類 183 項目 (細分類の分類項目数) ごとの件数を整理し、第一次調査結果と比較した。

(2) 「症状・副作用・後遺症」の悩みや負担の変化

全体を通じての大きな変化は、薬物療法に関する悩みや負担の割合が顕著に増加したことである。主要5大がんでは、特に、大腸がん、肺がん、乳がん、胃がんでの薬物療法に関連した悩みや負担が増加している。

図 4-1 「症状・副作用・後遺症」の薬物療法に関連した悩みや負担 (全体)

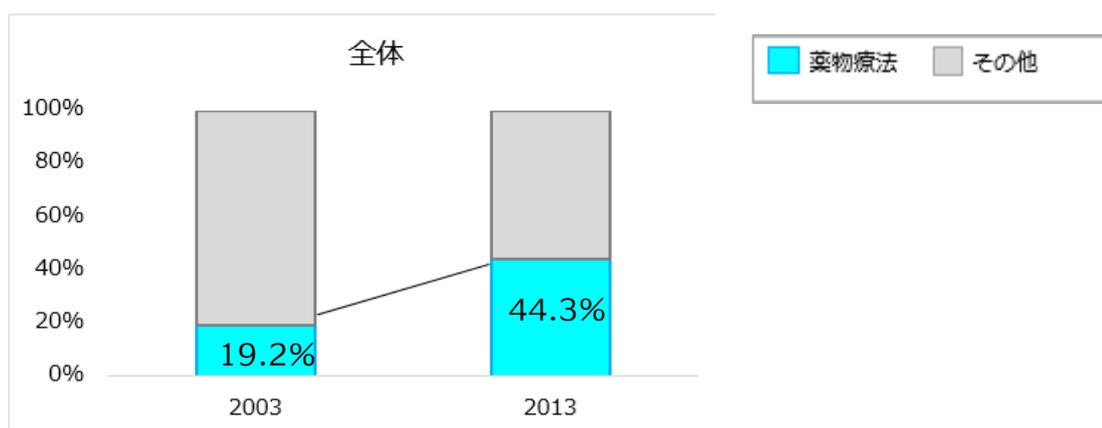


表 4-1 主ながん種別 「症状・副作用・後遺症」の薬物療法に関連した悩みや負担

		乳がん	大腸・直腸がん	肺がん	胃がん	子宮がん	全体
2003	薬物療法	281	58	51	46	63	752
	件数 (%)	(30.2%)	(11.2%)	(22.9%)	(7.2%)	(17.7%)	(19.2%)
	全体件数	929	516	223	639	356	3,915
2013	薬物療法	467	131	70	68	26	967
	件数 (%)	(60.5%)	(52.2%)	(59.3%)	(26.6%)	(8.8%)	(44.3%)
	全体件数	772	251	118	256	294	2,182

注) 表の数字の説明

◎薬物療法件数(%): 「症状・副作用・後遺症」のうち、小分類「抗がん剤による副作用の症状」、「抗がん剤の副作用の持続」の2つの小分類に分類された悩みや負担の件数。なおホルモン療法に関しては、手術と薬物療法どちらの症状か判断しにくい事例もあるため、今回は、件数には加えていない。

◎全体件数: がん種別の大分類「症状・副作用・後遺症」に分類された悩みや負担の件数

(3) 「症状・副作用・後遺症」の悩みや負担：上位 10 位

「症状・副作用・後遺症」に関して、細分類（具体的な悩みのラベルがついている）183 項目（細分類の分類項目）ごとの件数を整理し、全体とがん種別（乳がん、大腸がん、胃がん、肺がん、子宮がん）で上位 10 位までを表でまとめた。項目名の最後に（その他）とあるのは、漠然とした記述、他のどの細分類項目にもあてはまらないものなどをまとめた分類項目である。

a) 全体の比較

2003 年の調査時に比べ、全体的に、薬物療法（抗がん剤、ホルモン剤、分子標的薬による治療）の副作用症状に関連した項目が増加している。特に、末梢神経障害や外見の変化（爪、皮膚障害）による症状の増加が顕著である。なお、今回の調査の第 1 位が「抗がん剤による副作用症状(その他)」になっているのは、分子標的薬や他新薬の登場で 2003 年の分類ラベルにはなかった症状が生じてきていることも影響している。

表 4-2 “症状・副作用・後遺症” 細分類別 上位 10 位

背景の色の説明		薬物療法に関連した症状など		放射線療法に関連した症状など
		手術に関連した症状や後遺症など		治療後の生活行動
		その他の症状やその影響（原因が特定できない記述を含む）		

順位	2003 年	順位	2013 年
1	抗がん剤による脱毛	1	抗がん剤による副作用症状(その他)
2	抗がん剤による副作用症状(その他)	2	抗がん剤による脱毛
3	持続する術後後遺症（痛み・肩こり）	3	抗がん剤による末梢神経障害（しびれ、違和感等）
4	リンパ浮腫によるむくみ	4	治療後の体力低下・体力回復
5	持続する術後後遺症(その他)	5	リンパ浮腫による症状(その他)
6	薬物療法による吐き気	6	持続する術後後遺症(その他)
7	治療後の体力低下・体力回復	7	抗がん剤による副作用の持続(その他)
8	ホルモン剤治療による更年期症状	8	抗がん剤による食欲不振や味覚変化
9	(持続する症状) 痛み	9	持続する傷跡とその周辺の痛み、しびれ、つっぱり感等
10	罹患前の状態に戻れるか	10	今後の健康管理

b) 乳がん

全体の傾向と似ているが、より顕著に薬物療法の多様な副作用症状が上位にあがってきている。その多くは、治療終了後も長期化する症状(末梢神経障害によるしびれや脱毛など)、日常生活にも影響がある症状等である。

表 4-3 乳がん体験者の“症状・副作用・後遺症” 細分類別 上位 10 位

背景の色の説明		薬物療法に関連した症状など		放射線療法に関連した症状など
		手術に関連した症状や後遺症など		治療後の生活行動
		その他の症状やその影響（原因が特定できない記述を含む）		

順位	2003 年	順位	2013 年
1	抗がん剤による脱毛	1	抗がん剤による脱毛
2	抗がん剤による副作用症状(その他)	2	抗がん剤による副作用症状(その他)
3	持続する傷痕とその周辺の痛み、しびれ、つっぱり感など	3	抗がん剤による末梢神経障害(しびれ、違和感等)
4	リンパ浮腫によるむくみ	4	抗がん剤による副作用の持続(その他)
5	持続する術後後遺症(その他)	5	持続する傷痕とその周辺の痛み、しびれ、つっぱり感など
6	抗がん剤による吐き気	6	リンパ浮腫による症状(その他)
7	治療後の体力低下・体力回復	7	抗がん剤の副作用症状の長期化
8	ホルモン療法や手術による更年期症状	7	抗がん剤の副作用による日常生活への影響
9	(持続する症状) 痛み	7	ホルモン療法等による副作用(その他)
10	罹患前の状態に戻れるか	10	抗がん剤による外見の変化(爪が黒くなる、皮膚症状など)

表 4-4 乳がん体験者の“症状・副作用・後遺症” 細分類別事例（上位 3 位）

1	抗がん剤による脱毛
	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 抗がん剤の副作用で髪が抜けるつらさ、頭では理解できて心がついていかない。 ❖ 抗がん剤による脱毛がとても嫌だった。かつらをつけての就労も悩み。 ❖ 抗がん剤治療での脱毛で、6年経った今もウィッグを着ける毎日。仕事柄ヘアスタイルはとても重要なのに、こんなに元に戻らないものかと悩んでいる。 ❖ 抗がん剤治療の後遺症などはほとんどなく、食事もふつうにできたが、髪が抜けてウィッグを付けなければならぬときはとてもつらく、悲しい時間だった。人目を気にして家から出たくなかった。長い黒髪がつるつるになってしまうのは女性としてつらかった。 ❖ 髪が抜け、生えてきているが以前と髪の質が違う。髪がまだ短い伸びかけの状態の仕事をしている。
2	抗がん剤による副作用症状（その他）
	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 週 1 回の抗がん剤の点滴治療中は、胃痛、体重減少、体力低下などがあり、副作用が不安だった。 ❖ 抗がん剤治療はとてもつらかった。顔はどす黒く、指はしびれ血管痛になり、嫌になった。 ❖ 手足のしびれ、関節痛、筋肉痛などがあり痛み止めや漢方薬を服用しているがあまり効果がない。 ❖ 3 度目の再発で抗がん剤治療中。体がだるくつらい毎日だがよくなることを信じがんばりたいと思う。 ❖ 抗がん剤の副作用で、むくみで体重が増加し、特に顔の変貌により人に会うことができずひきこもり状態になる。
3	抗がん剤による末梢神経障害（しびれ、違和感等）
	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 手、足の指がしびれ、物を落すことがよくあり、どうしようと思った。 ❖ 現在も足の裏に違和感が残っている。徐々によくなっていて生活に支障はないが、早くなくなってほしい。 ❖ 足の裏がしびれているので歩きにくい感じがあり、たびたび足の指がつるようになった。 ❖ 抗がん剤の副作用で足の裏にしびれが残り、風呂に入っているときと寝ているときが一番じんじんする。 ❖ 足裏の感覚が、いつも指先の方が砂浜を歩いている感じで力が入らず、フラフラしてしまう。指（手）も前のようなかなか戻らず、布との摩擦が痛くて、爪も割れて深爪になってしまった。これも痛い。

c) 大腸がん

第一次調査時は、「下痢・頻便・便失禁」、「人工肛門の取り扱い」など手術に関連した症状や機能障害が上位にあがっていたが、第二次調査では、薬物療法の副作用症状が上位にあがってきている。薬物療法を受ける患者数が増え、分子標的薬による新たな副作用も出現していることなどがその理由と考えられる。

表 4-5 大腸がんの“症状・副作用・後遺症” 細分類別 上位 10 位

背景の色の説明		薬物療法に関連した症状など		放射線療法に関連した症状など
		手術に関連した症状や後遺症など		治療後の生活行動
		その他の症状やその影響（原因が特定できない記述を含む）		

順位	2003 年	順位	2013 年
1	下痢・便失禁	1	抗がん剤による末梢神経障害（しびれ、違和感等）
2	便秘	2	抗がん剤による副作用症状（その他）
3	治療後の体力低下・体力回復	3	抗がん剤による副作用の持続（その他）
4	排便障害による頻回なトイレで外出時、仕事中落ち着かない	4	治療後の体力低下・体力回復
5	人工肛門の取扱い	5	抗がん剤の副作用症状の長期化
6	罹患前の状態に戻れるか	6	頻回の排便・頻回の便意
7	抗がん剤による副作用症状（その他）	7	抗がん剤による外見の変化（爪が黒くなる、皮膚症状など）
8	持続する術後後遺症（痛み・肩こり）	7	抗がん剤による食欲不振や味覚変化
9	術後合併症・後遺症（その他）	9	抗がん剤による脱毛
10	持続する症状（その他）	9	抗がん剤による下痢や便秘
		9	下痢・便失禁
		9	排便障害（その他）
		9	今後の健康管理

表 4-6 大腸がん体験者の“症状・副作用・後遺症” 細分類別事例 上位 3 位

1	抗がん剤による末梢神経障害（しびれ、違和感等）
	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 抗がん剤治療の副作用について薬剤師より詳しい説明を聞いていたが、手足のしびれが特にひどく、今後も治療が長引くと思われその対応に苦慮している。 ❖ 抗がん剤服用か放射線治療のため、手、足のしびれで立つのも厳しく、よく転倒したり、階段が無理だったりする。それでも普通に生活できるように体力をつけようとがんばっているが、どうにもならないときがあり、本当に泣きわめきたくなる。 ❖ 薬の副作用で手足などがしびれ感覚がない。手は箸が持ちにくく、食べものを落とし、字が書きにくい。足は雲の上を歩いているみたい。 ❖ 足裏全体と指先にまだしびれ感が残り、いつになったら消えるのだろうか。 ❖ 指先のしびれで字が書きにくい。フタ等があげられない。
2	抗がん剤による副作用症状（その他）
	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 副作用と思われるだるさや下痢。 ❖ 倦怠感があるため、何もする気にならない。 ❖ 顔がむくんでいるし足の巻き爪で靴が履けない。 ❖ 抗がん剤の副作用による腹痛が一時的にひどく、いつまで続くのかと不安だった。 ❖ 全身倦怠感など抗がん剤の副作用のつらさが半年続いた。
3	抗がん剤による副作用の持続（その他）
	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 抗がん剤の副作用があっても、仕事や家事をこなしていくのが生きている喜びと思えるときもあるが、その日常がつらくてつらくて、抗がん剤治療をやめたい、でもやめたら死が目の前になると悩んだ。心の中の葛藤を誰にも言えず、それもつらかった。 ❖ 副作用の厳しさに嫌気がさした。 ❖ 抗がん剤治療中、副作用がひどく中止したいと思った。 ❖ 薬による副作用がつらい。 ❖ 副作用が強く出たとき、いつまで続くつらさなのか、このまま体が動かなくなってしまうのではないかと不安になる。

d) 胃がん

他部位と比較し、上位 10 位以内のほとんどの項目は、第一次調査・第二次調査とも、手術に関連した症状などの項目である。特に、食事、体重減少、体力低下の3つのキーワードが胃がん体験者の悩みの特徴といえる。ただし、第二次調査では、第 1 位をはじめ薬物療法に伴う副作用に関する悩みが、上位 10 位以内に 2 つ入っている。これは、術後補助化学療法の進歩によるものと考えられる。

表 4-7 胃がんの“症状・副作用・後遺症” 細分類別 上位 10 位

背景の色の説明	薬物療法に関連した症状など	放射線療法に関連した症状など
	手術に関連した症状や後遺症など	治療後の生活行動
	その他の症状やその影響（原因が特定できない記述を含む）	

順位	2003 年	順位	2013 年
1	胃切除により食事が少しずつしか食べられない	1	抗がん剤による副作用症状(その他)
2	胃切除後に体重が増えない、体重減少	2	胃切除により食品の選択、献立、摂取方法への気がりや悩み
3	治療後の体力低下・体力回復	2	胃切除後に体重が増えない、体重減少
4	胃切除による食事に関するその他の影響	4	胃切除により食事が少しずつしか食べられない
5	下痢・頻便・便失禁	4	胃切除後の腹部症状（腹痛、腹部膨満感など）
6	胃切除後のダンピング症状	6	治療後の体力低下・体力回復
7	胃切除後の回復	7	胃切除後のダンピング症状
8	胃切除により食事がつまる	8	抗がん剤による食欲不振や味覚変化
9	便秘	9	胃切除による食事がつまる
10	胃切除による日常生活に関する悩み	10	その他の胃切除後の影響による症状

表 4-8 胃がん体験者の“症状・副作用・後遺症” 細分類別事例 上位 3 位

1	抗がん剤による副作用症状（その他）
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 抗がん剤の副作用が強く、いかに乗り切るかに無我夢中だった。 ❖ 副作用の吐き気、だるさ、疲労感が強く、体力が低減した。 ❖ 抗がん剤の副作用らしく涙目になる。 ❖ 涙道閉塞により現在眼科にて治療中、涙道にパイプを入れている。涙が流れるようになればよいが閉塞のままになるのかと心配である。涙が常に外に出ているので目がショボショボし、パイプを入れてから、目やにが出て困っている。眼科には、その旨話してはいるが。 ❖ 抗がん剤を 1 年間続けているため副作用の倦怠感、だるさ、腹痛などに苦しんでいる。 	
2	胃切除により食品の選択、献立、摂取方法への気がかりや悩み
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 退院後の食事内容が難しかった。頭では理解できても、自分の体の受け入れが違った。 ❖ 少しずつよかんて食べられないのが悩み、わかっているけど早食いをしてしまい後悔する。 ❖ 食事面の悩みがある。食事の食べ方、飲み込み方など、本などを買って大変な苦労をした。 ❖ 胃がん手術で胃を 2/3 摘出したため、治療後 1 年経つが、揚げもの、寿司、うなぎ、油料理など好きな食物を控え、食べるのをがまんしている。 ❖ 好きな食べ物を食べるのに少し躊躇する。 	
2	胃切除後に体重が増えない、体重減少
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 手術直後は手術前に比べ体重が 10kg 減っていた。その後も 1~2kg 減っており、同時に体力も落ちている。筋力強化しなくてはと感じている。 ❖ 体重が 60kg 台から 15kg 以上減った。 ❖ 食事等による、激減した体重と筋力の取り戻し方。 ❖ 退院後、苦しくて食事がとれず痩せていく。 ❖ 体重が増えないこと。 	

e) 肺がん

他部位と同様に、第一次調査結果と比較すると、第二次調査では、手術関連の症状から薬物療法の副作用症状へと上位が変化してきている。

表 4-9 肺がんの“症状・副作用・後遺症” 細分類別 上位 10 位

背景の色の説明		薬物療法に関連した症状など		放射線療法に関連した症状など
		手術に関連した症状や後遺症など		治療後の生活行動
		その他の症状やその影響（原因が特定できない記述を含む）		

順位	2003 年	順位	2013 年
1	治療後の体力低下・体力回復	1	抗がん剤による副作用症状(その他)
2	持続する術後後遺症（痛み・肩こり）	2	治療後の体力低下・体力回復
3	持続する術後後遺症(その他)	3	抗がん剤による脱毛
4	抗がん剤による脱毛	4	抗がん剤による食欲不振や味覚変化
5	(持続する症状) 痛み	5	抗がん剤による副作用の持続(その他)
6	その他の持続する症状	6	抗がん剤による外見の変化 (爪が黒くなる、皮膚症状など)
7	抗がん剤による副作用症状(その他)	7	体を動かしたときの息切れ、息苦しさ、動悸
8	抗がん剤による吐き気	7	罹患前の（病気になる前の） 普通の生活ができないつらさ
9	歩くと目まいや息苦しさ	9	抗がん剤による下痢や便秘
10	体を動かしたときの息切れ、 息苦しさ、動悸	9	持続する傷痕とその周辺の痛み、 しびれ、つっぱり感など
		9	持続する術後後遺症(その他)

表 4-10 肺がん体験者の“症状・副作用・後遺症” 細分類別事例 上位 3 位

1	抗がん剤による副作用症状（その他）
<ul style="list-style-type: none"> ❖ むくみ、吐気、脱毛など初めてのことであったので、半年間の月一回の抗がん剤治療のたびに副作用、後遺症などドキドキした。 ❖ 抗がん剤を月 2 回投与したことがあり、むくみなどの副作用が出てきたので、こんなに使って大丈夫なのか不安になった。 ❖ 術後の痛みと抗がん剤の副作用の脱毛、便秘、むくみなどにより引きこもり状態となった。 ❖ 薬の副作用によるめまい、湿疹。 ❖ 抗がん剤治療がつらくて、体中が痛いし食事はできないしで家族が心配しているのが分かったので精神的につらかった。 	
2	治療後の体力低下・体力回復
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 手術後の体力（肺活量）低下の程度。 ❖ 体力低下で、草刈りや重い物を持つなどの力仕事ができない。体力を使わないので体重が増えた。 ❖ 体力の低下。 ❖ 体が元に戻れないのが悩み。 ❖ 今後どこまで回復できるか心配。 	
3	抗がん剤による脱毛
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 髪の毛が抜けることがいちばんの悩みだった。 ❖ 脱毛のときは不安でいっぱいになった。想像を超えていた。 ❖ 1 年経ち、今髪が抜けて帽子をかぶっている。早く髪が生えてくればいいのに。 ❖ 営業の仕事をしているので、抗がん剤の副作用で髪が抜けてきたことが困る。 ❖ 副作用、特に頭髪の脱毛。 	

f) 子宮がん

上位は、第一次調査・第二次調査とほとんど変化はない。リンパ浮腫に関連した悩みや負担が上位を占めている。

表 4-11 子宮がんの“症状・副作用・後遺症” 細分類別 上位 10 位

背景の色の説明	■ 薬物療法に関連した症状など	■ 放射線療法に関連した症状など
	■ 手術に関連した症状や後遺症など	■ 治療後の生活行動
	■ その他の症状やその影響（原因が特定できない記述含む）	

順位	2003 年	順位	2013 年
1	リンパ浮腫によるむくみ	1	リンパ浮腫による症状(その他)
2	抗がん剤による脱毛	2	持続する術後後遺症(その他)
3	(リンパ浮腫) 日常生活における肉体的・精神的揺らぎ	2	排尿障害(その他)
4	放射線療法による副作用症状(その他)	4	リンパ浮腫による歩行・外出・仕事・家事・運動の困難
5	尿失禁	4	抗がん剤による脱毛
6	(ホルモンバランスの変化) 臓器摘出等による更年期症状	6	(リンパ浮腫) 弾性ストッキング装着による不快感・不便さ
7	治療後の体力低下・体力回復	7	抗がん剤による副作用症状(その他)
8	抗がん剤による吐き気	8	リンパ浮腫によるむくみ
9	抗がん剤による副作用症状(その他)	9	イレウス(腸閉塞)による症状・つらさ(その他)
10	持続する術後後遺症(その他)	10	(リンパ浮腫) 日常生活における肉体的・精神的揺らぎ
		10	治療後の体力低下・体力回復

表 4-12 子宮がん体験者の“症状・副作用・後遺症” 細分類別事例 上位 3 位

1	リンパ浮腫による症状（その他）
<ul style="list-style-type: none"> ❖ リンパ浮腫を発症、どんどん左足が太くなり、元に戻らなくなったのがいちばんつらかった。ヒリヒリして少しものが当たっても痛かった。くるぶしもみえなくなったときはとてもショック。下腹部や外陰部もかなりむくんだが、リンパ浮腫の医師に見せられないところでなかなか相談や治療ができない。 ❖ 大腿部のリンパ節を取ったため、痛み、むくみなどがある。蜂窩織炎にならないか不安。 ❖ 足のむくみや腸の癒着があり、もうそろそろパートの立ち仕事を辞めたいと思っている。 ❖ 5 年後に後遺症の下肢リンパ浮腫を発症し、一生治らないこと、弾性ストッキングをはくことになったこと。 ❖ リンパ浮腫で夕方になると足の甲がこわばったりむくむ。リンパ嚢胞がしくしく痛む。 	
2	持続する術後後遺症（その他）
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 退院後、腸が下がってしまったので気になった。2 年前に診察したときに、対処のため手術することができると言われていたが、その後行っていない。 ❖ 生きることを選んだので現在の状況に迷いはないが、年齢とともに後遺症のリンパ浮腫、腎不全などが出ている。 ❖ 手術の後遺症で足のつけ根が痛かった。立ちっぱなしが辛いから電車などで座りたい。 ❖ 治療後仕事復帰ができると思っていたのに思わぬ後遺症を発生し、それにより入退院を繰り返すこととなった。病気への不安だけでなく、後遺症に気持ちが沈んでいた。 ❖ 手術後左足の底にしびれが残り、現在も続いているが治るのか。歩行や仕事は正常にできる。 	
2	排尿障害（その他）
<ul style="list-style-type: none"> ❖ 後遺症のリンパ浮腫と排尿障害で尿が出ず、自己導尿が必要で練習もつらかった。退院後ずっとそうなるのかと思うととても悲しくつらかった。しばらくそれが続いたが、しだいに自力で出す方法を習得した。 ❖ 手術の後遺症の排便障害、排尿障害、リンパ浮腫があり、生活していく中での制限があること。 ❖ 手術の後遺症で尿意を感じず、不自由な思いをしている。時間を決めてトイレに行くなどしているが、家にいるとさつき行ったか行かないか、わからなくなるときもある。 ❖ 排尿困難と失禁は続いている。泌尿器科でカテーテルの使用方法を指導されてから少しよくなったが、完全に排尿されていなければ所構わず出てしまう。 ❖ 排尿障害を改善する薬と排尿を促す薬を服用していたが、薬を止めたら尿が出にくくなり、バルンカテーテルと自己導尿していたとき。今もまだ 2 種類の薬を服用している。 	